

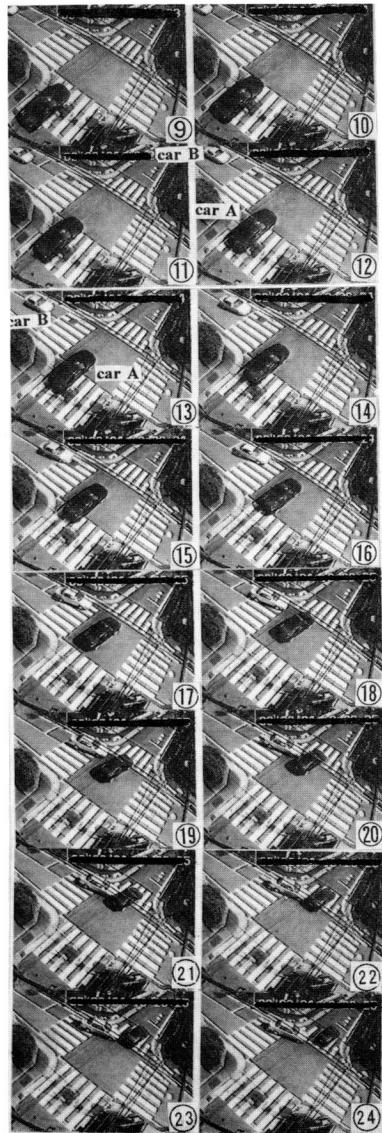
事故の一瞬をとらえる —事故発生のメカニズムについての考察—

科学警察研究所
交通部付主任研究室 上山 勝

従来の事故予防に関する研究は、事故後の調査によるアプローチがほとんどであり、事故の発生過程には未だ不明な点が多い。本研究では、事故の発生直前・中・直後の状況を映像として記録できる交通事故自動記録装置 (TAAMS: Traffic Accident Automemory System)を開発し、それによって記録収集した映像データを解析することによって、事故に共通する因子を整理し、事故発生のメカニズムを明らかにすることを試みたものである。

交差点での事故のうち、特に無信号交差点での出合頭事故は、運転者の認識あるいは判断ミスの結果であると言われている。優先道路の運転者には、優先権をさらに主張する状況が発生する。一方、一時停止規制のある非優先道路を走行中に事故に関係した運転者は、しばしば接近する交差道路の車両とのギャップ判断を誤ったり、ある状況下においては、時には無視したりさえもすることが指摘されている。また、無信号交差点では、運転者がしなければならないタスクが複数存在するために、判断ミスが発生し易いとも言われている。果たして本当であろうか。

我々は、無信号交差点においては、事故発生直前の自車の行動を含めた各車両の挙動が運転者の判断ミスを誘発する大きな要因であると仮定し、TAAMS によって収集した映像の中から、交差点への接近段階で慎重な行動をとったにも拘わらず事故に遭遇した事例に注目してその事故の発生メカニズムを検討した。また、本報告では、裏道交差点での原付事故について、事故後の関係者へのヒアリングを行い、事故の原因に対する認識と実際との違いについても検討した。



事故発生の一瞬を写真でとらえる